

大学生の Instagram の投稿行動の実態とそこに影響を及ぼす自己意識特性について

—なぜ彼／彼女らは疲れないのか—

発表者:江端 優香

指導教員:中間 玲子

【研究概要】

本研究では、学生の SNS 利用における「Instagram 疲れ」の実態について明らかにすること、「Instagram 疲れ」と自己意識特性の関連について検討することを目的とした。大学生を対象に調査を行い、Instagram での活動状況や投稿行動について詳しく検討し、その実態を把握した。そしてそれらと Instagram 疲れとの関連を検討した。それらの結果を踏まえた上で、「Instagram 疲れ」と自己意識特性との関連について検討を行った。

はじめに	第 3 章 結果
第 1 章 先行研究	第 1 節 Instagram の活動環境
第 1 節 Instagram とは	第 2 節 投稿行動の実態
第 2 節 Instagram へののめりこみ	第 3 節 Instagram 疲れの実態
第 3 節 SNS 疲れ	第 4 節 自己意識特性
第 4 節 SNS 疲れと性格特性の関連について	第 4 章 考察
第 5 節 自己意識特性	第 1 節 Instagram の活動環境
第 6 節 目的と仮説	第 2 節 投稿行動の実態
第 2 章 方法	第 3 節 Instagram 疲れの実態
第 1 節 目的	第 4 節 自己意識特性
第 2 節 調査の概要	第 5 章 まとめと今後の課題

【問題と目的】

Instagram とは SNS (Social Networking Service) のひとつで、写真や動画の投稿をメインとしているサービスである。特徴としては、写真・動画の撮影・編集・共有に特化している事、投稿機能に「フィード投稿」「ストーリー投稿」「アーカイブ機能」等の様々な投稿パターンがあり、自分の好みに投稿出来る事などがある。若い世代を中心に Instagram の人気は非常に高く、「インスタ映え」や「インスタグラマー」といわれる言葉も生まれている。。Instagram 利用者の中には Instagram にのめり込み、「Instagram 疲れ」に陥る人もいるのではないかと考えた。

「SNS 疲れ」には、「疲労感」以外に「わずらわしさ」「嫌悪感」といった複数の感情があると考えられること (加藤, 2013), また, SNS 疲れに至るストレス過程についても個人差があること (佐藤・矢島, 2017) が分かっている。Instagram にのめり込んでしまう投稿行動とは、例えばカフェ等に行って映える写真が撮れるまで何枚も撮り直したりする行動の事等を示す。だがそこには、映える写真を撮ることが出来て楽しい人と、映える写真を撮らなければならないと考える人がいると考えられる。その場合、同じ投稿行動であっても、後者の場合は「SNS 疲れ」に陥ってしまうのではないかと予想される。

それに加え、性格特性としての公的自己意識特性が関わっているのではないかと予想した。公的自己意識は、自己意識特性の 1 つであるとされており、自己意識特性は、自己への注意の向けやすさの個人差をあらわすものであると述べられている (Fenigstein, Scheier, & Buss, 1975 ;

辻, 1993)。この公的自己意識の高い人は、他者からの評価に敏感であるため SNS の投稿においてもストレスを強く感じ「SNS 疲れ」に陥りやすいのではないかと考えた。

そこで、本研究では学生の SNS 利用における「Instagram 疲れ」の実態について明らかにすること「Instagram 疲れ」と自己意識特性の関連について検討することを目的とする。まず、Instagram での活動状況や投稿行動について詳しく検討し、その実態を把握する。そしてそれらと Instagram 疲れとの関連を明らかにする。それらの結果を踏まえた上で、「Instagram 疲れ」と自己意識特性との関連について明らかにすることを目的とし、大学生を対象に検討する。

【方法】

筆者と交友関係のある 10 代～20 代男女に、筆者が作成した Web 調査への回答を求めた。回答に協力してくれた 152 名のうち、学生 111 名（男性：27 名 女性 84 名）を分析対象とした。質問紙は、フェイスシート（性別、年齢、職業）に続けて、①自己意識特性尺度（菅原, 1984）。②Instagram の利用状況に関する項目（きっかけや目的、フォローフォロワー数、投稿枚数、個人情報への意識等）③Instagram の投稿行動に関する尺度（フィード投稿に関する項目 59 項目、アーカイブ投稿に関する項目 19 項目）④Instagram 疲れに関する項目 15 項目などから成る。

【結果とまとめ】

Instagram の投稿行動に関する項目と Instagram 疲れに関する項目は本研究で独自に作成していた。それらについて因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った結果、Instagram の投稿行動については「映え」「自分大好き」「人大好き」の 3 因子、Instagram 疲れについては「トラブル経験」「活動不安」の 2 因子が見出された。

結果に関して、投稿行動と Instagram 疲れとの関連については、「トラブル経験」は「映え」「自分大好き」と正の相関、活動不安は「映え」「自分大好き」「人大好き」と正の相関があった。

Instagram の投稿行動および Instagram 疲れと自己意識特性との関連については、公的自己意識は「自分大好き」と正の相関があり、Instagram 疲れにおいては、公的自己意識は「活動不安」私的自己意識は「トラブル経験」とそれぞれ正の相関が示された。

「Instagram 疲れ」の実態に関する結果は、そもそも「Instagram 疲れ」に陥っている人が少なかった。また、少ないながらも、「Instagram 疲れ」に陥った人が、その後行った行動に関しては、「投稿はせずに他の人の投稿を見るだけ」が最も多くこれらの結果から、「Instagram 疲れ」に陥った人も辞めたいほどに疲れているわけではないことが分かる。

今回の結果から、投稿行動の違いによって「Instagram 疲れ」に差は見られなかったことや、「Instagram 疲れ」の実態としては疲れに至っていない人が多く、疲れていても辞めるまでには至っていない人がいること、さらに、「Instagram 疲れ」を感じる個人差としては自己意識特性以外にも他の要因が関連している可能性があることが明らかになった。

【主要参考文献】

- ・名取洋典・森丈弓・古崎茉貴(2014) SNS 疲れを測る(1) (2) 受動的・能動的 SNS ストレスイベント尺度の作成, 日本心理学会第 78 回大会, 62—63
- ・菅原健介(1984) 自己意識尺度(self-consciousness scale)日本語版作成の試み, 心理学研究, 3, 184-188
- ・辻平治郎(1993) 自己意識と他者意識 株式会社 北大路書房